

分類/科目	単元目標	テキスト	関連(副題)	基本研修日数	ICT-A	ICT-B	内容、位置づけ	
					I M C N E T ジ ブ メ ロ ン ジ ト エ ク ト A	I M C N E T ジ ブ メ ロ ン ジ ト エ ク ト B		
基礎知識	ICT共通基礎	-	オンライン学習(来日前)	0			e-Governmentの基礎、情報セキュリティ基礎、Modern Technology (GIS、クラウド、AI)	
		1	○ Enterprise Architecture (EA)	1	●	●	組織全体の業務システムを最適化のための仕組みやプロセスについて学ぶ	
		1	-	ジョブレポートプレゼンテーション	1	●	●	各国の研修員による現在の所属組織のICT事情と課題を共有する。
	先進技術	1	○ Modern Technology (クラウド、AI)	1	●	●	クラウドサービスの利用拡大やAI技術の進展は、途上国の経済発展や社会課題解決に大きな貢献が期待される。本項では日本におけるクラウド・AI技術の政策重要度が増したことを鑑み、ICTの最新トピックを紹介する。	
ソフトスキル	コミュニケーション	2	○	4			効果的なコミュニケーションはチーム内外の協働を促進します。情報を明確に伝え、相手の意見を理解し受け入れる能力、交渉する能力は、プロジェクトの進捗や問題を適時に共有し、信頼関係を築くことに繋がる。またコミュニケーションはリスク管理や問題解決にも影響し、円滑な意思疎通によりプロジェクトの失敗や遅延を回避しやすくなる。本研修で扱うコミュニケーションスキルは、発注者としてRFPを作成し、ベンダーを監理し、最終的に説明責任を果たすための“業務スキル”です。	
					ロジカルシンキング	●	●	(課題の整理) 課題が曖昧なままRFPを出すと、ベンダーへの提案がバラバラになったり、契約後に「想定していなかった」ことが頻発する恐れがある。発注者は現在の業務課題を現象/原因を構造的に分解して整理し、“なぜこのシステムが必要か”“何を実現すべきか”をRFPに落とし込む必要がある。そのための思考スキルを学ぶ。
					プレゼンテーション	●	●	(関係者との合意形成) どんなにうまく提案書を完成させたとしても、意思決定を通すために、その必要性・効果・リスクを、非IT部門や上位者に対して分かりやすく説明するスキルが必要となる。同科目では組織において自らの提案を正しく整理して伝えるスキルを学ぶ。
					問題解決とファシリテーション	●	●	(実行・監理) プロジェクト中は必ず、仕様解釈のズレやスケジュール問題、又は関係者からの追加要望が発生しうる。こうした課題を発注者として整理・判断し、プロジェクトを停滞させず前進させるためのスキルを学ぶ。
			ネゴシエーション	●	●	(契約・調整) 発注者としての交渉は、公平性、説明責任、契約遵守を前提に進める必要がある。合意形成できないと「曖昧な契約」になり、後で必ず問題化する。同科目では対立ではなく合意形成としてベンダーと調整するスキルを学ぶ。		
ハード・テクニカルスキル	戦略・企画システム開発及び管理	3	○	6			システムを導入するプロジェクトを進めるうえで、それを遂行するメンバーとその体制作りである。また、システム導入はベンダー任せだけで成功するほど簡単なものではなく、発注者側も業務フローの作成、要件定義や設計といったコンサルティングに参加する必要がある。本項では比較的小規模なシステム導入のプロジェクトにおける、発注側の体制づくりについて考え、業務要件定義の必要性および要件定義手法を学ぶ。またICTを導入・活用するにあたり目的と戦略を適切に設定し、その効果やリスクを測定・評価して理想とするICT活用を実現するメカニズムを確立するための手法を学ぶ。中小規模システム開発(アジャイル開発)の原則・具体的手法、途上国における開発スタイル、アジャイル開発の実例の紹介。	
					業務要件定義・ヒヤリング	●	●	
					企画提案書作成	●	●	
	システム開発(生成AI活用)	●	●	生成AI(アジャイル学習)の本質を学ぶ。生成AI活用による開発効率と品質の向上、意思決定の迅速化など、生成AIの適切な活用方法と、戦略的な課題解決や創造的な設計について学ぶ。またAIの案と人間の案を比較し「なぜ違うのか」を分析させる工程に加え、「AIはアイデアであり本回答ではない」ことを意識付ける				
	プロジェクトマネジメント	3	○	3	●	●	プロジェクトを成功するには、計画、実行、監視、調整、完了の各段階で求められる能力が必要となる(チーム構築力、意思決定、リスク管理、時間管理等のスキル)。また、プロジェクトマネージャーは目標達成に向けてリソース配分とスケジュール管理が求められるだけでなく、予期せぬ問題や変更に対応する柔軟性と適応力も重要となる。これらのスキルを高めることで、プロジェクトをスムーズに進行させ、目標を達成しやすくなる。本項ではプロジェクトの計画立案に必要な基礎的思考と手法(RFP作成、見積もりなど)、変更マネジメントや調達マネジメントなど、プロジェクトを運営していくための基礎的な方法を学ぶ。	
ICT基盤構築	3	○	2	●	●	組織の情報通信技術(ICT)を利用するための土台となるインフラ構築について学び、それを動かすために必要な要素の分析、計画～設計～構築～運用までの手法と手順を学ぶ。		
セキュリティ	3	○	2	●	●	プロジェクトの計画から実行、終了まで、情報セキュリティのリスクを特定し、評価し、対策を講じることで、プロジェクトの成功と情報資産の保護をすることができる。本項ではプロジェクトマネジメントにおけるサイバーセキュリティの重要性について学ぶ。		
総合演習	4	○	プロジェクトマネジメント演習A	5	●		本演習では、参加者がICTプロジェクトを適切に発注・監理できるようになることを目的とする。参加者は3～4人のチームで発注者役を担い、RFP作成から発注、受注者(仮想ベンダー)の監理、最終的な成果物の受領までを一連の流れとして疑似体験する。演習を通じて、RFP作成に必要な思考力、意思決定力およびベンダーとのコミュニケーション能力を実践的に習得す	
			プロジェクトマネジメント演習B	5		●		
アクションプラン	5	○	アクションプランA	4	●		総合演習の体験を元に、自国課題に置き換えたRFP(Request for Proposal)骨子を作成する。	
			アクションプランB	4		●		
県内視察学習	4	-	県内(1日)	1	●	●	沖縄県内の行政におけるICT取り組み事例および官民の連携体制等を学ぶ。	
その他			General Orientation、来日ブリーフィング、	1	●	●	※科目ではない。	
			視察(沖縄文化紹介等)、日本語研修、市表敬等	1	●	●	※科目ではない。	
			コースオリエンテーション	1	●	●	※科目ではない。	
			閉講式、評価会	1	●	●	※科目ではない。	
			JICAイベント(共創)	1	●	●	※科目ではない。	
			JICAイベント(還流)	1	●	●	※科目ではない。	
			予備日A	0	●		※科目ではない。	
			予備日B	0		●	※科目ではない。	
(2026年度)全体研修日数					53	53	来日～帰国日 ※土日祝含む	
技術研修日数(全体)					33	34	※土日祝含まず	